

令和 7 年度

「運営に関する計画」  
中間評価

大阪市立九条東小学校

令和 7 年 1 0 月

(様式2)

## 大阪市立九条東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89.3%以上にする。  <b>児童アンケート100%</b> (R6経年: 89.2%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。  (R6経年: 91.9%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【(1) 安心・安全な教育環境の実現】</b></p> <p>○ いじめや暴力行為、不登校など、問題行動について未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。</p> <p>○ 職員会議や児童理解全体会、生活指導委員会で話し合われた内容を共有し、日々の指導にあたる。</p> <p>○ 学校全体で子ども達が相談しやすい雰囲気を醸成する。</p> <p>○ 毎朝玄関に立ち、登校してくる児童の安全を確認する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについての解消率100%を目指す。  (R6校内: 100%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。  <b>児童アンケート100%</b> (R6経年調査: 91.9%)</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率0%を目指す。  (R6校内: 0%)</p> <p>○ 「学校安心ルール」を活用し、年に2回(前期・後期)、自分の言動について振り返らせる。</p> <p>○ 「スクリーニングシート」を作成し、学期に1回以上スクリーニング会議を実施し、児童の小さな変化も教職員全体で共有する。また、区役所こどもサポートネットと協働して、スクリーニング会議Ⅱを実施する。</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「学校は、楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。  (R6校内: 92%)  <b>児童アンケート100%</b></p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「困ったときに、先生は、話を聞いてくれますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p>	A

<p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 100%</b> (R 6 校内 : 100%)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「困ったときに、助けてくれる友達はいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 97%</b> (R 6 校内 : 100%)</p> <p>○ 連絡なく欠席または遅刻している場合は、養護教諭を中心に毎朝家庭に連絡をする。欠席や遅刻が続くような場合は、家庭訪問を行い、保護者の協力を得て児童の登校を促す。</p>	
<p>取組内容②【<b>(1) 安心・安全な教育環境の実現</b>】</p> <p>○ 毎月の生活目標の周知を行い、きまりを守ろうとする意識を高める。</p> <p>○ 場に応じたあいさつや言葉づかいができる子を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 100%</b> (R 6 校内 : 100%)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、『おはようございます』『さようなら』などのあいさつをすすんでしていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 100%</b> (R 6 校内 : 100%)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「正しいことばづかいをするよう、こころがけていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 100%</b> (R 6 校内 : 94%)</p>	A
<p>取組内容③【<b>(2) 豊かな心の育成</b>】</p> <p>○ 学校行事やたてわり班活動、クラブ活動、委員会活動等の異学年交流や学級活動を通して、互いの違いを認め合い、一人一人のよさが発揮できる集団を育成する。</p> <p>○ 「いいところみつけ」を全校で年間を通して取り組む。</p> <p>○ インクルーシブ教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 小規模校の特性を活かし、異学年との交流を工夫し毎週行う。(児童集会・たてわり班遊び・たてわり清掃・ペアタイム等)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「友達のいいところみつけができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 97%</b> (R 6 校内 ; 94%)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「たてわり班やペア学年での活動は楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする</p> <p style="text-align: center;"><b>児童アンケート 100%</b> (R 6 校内 : 94%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 77%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R 6 経年 : 91.9%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 96%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R 6 経年 : 97.3%)</p> <p>○ 合理的配慮の観点に基づく、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成、毎</p>	A

学期見直し、インクルーシブ教育を推進する。		
取組内容④【(2) 豊かな心の育成】 ○ 体験学習を通して、発達段階に応じたキャリア教育を実施し、好奇心や探求心、職業観を養う。 ○ キャリア教育の年間計画を立て、実施する。		B
指標 ○ 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.5%以上にする。 ○ 各学年が年間で1回以上ゲストティーチャーを招いた体験学習を行う。 ○ 「キャリア・パスポート」の年間計画を作成し活用する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 ・実施済みの児童アンケートでは、全ての項目において目標値を上回っている。		
取組内容① ・学期に1回いじめアンケートを行い、毎月の職員会議や毎週末の連絡会等により、児童の様子について交流し、職員間で情報を共有することで、トラブルを未然に防ぐことができている。また、児童間のトラブル等がおこったときにも解決に向けて素早く対応することができている。  ・たてわり班活動や隣接学年での活動等により、学年をまたいで教職員が様々な児童と関わるが増えている。この関わりは、児童と教職員との関係を築くことになっている。  ・保健室来室状況や欠席状況等を教職員に回覧し、共通理解を図ることで、学校全体で児童を見守る体制がとれている。  ・毎朝、養護教諭を中心に、複数の職員が玄関に立ち、児童の安全を見守ると同時に、その日の児童の様子が把握できている。また、遅刻や欠席もすぐに把握し、家庭と連携をとることができている。さらに、連絡なく遅刻または欠席している児童に対しては、毎朝、養護教諭や管理職中心に家庭に連絡をしている。その結果、遅刻の回数が減った児童もいる。		
取組内容② ・毎月生活目標を教室に掲示したり、児童朝会で生活目標の話をしたりすることで、児童にきまりを守ろうとする意識をもたせることができている。また、あいさつについては、すべての児童がアンケートに肯定的な回答をしているものの、自ら進んであいさつできていない児童もいるので継続した指導が必要である。言葉づかいについては、友達と遊んでいる場面では乱れることもあるが、学校生活の場面に応じて言葉づかいに気をつけようとする態度は育ってきている。		
取組内容③ ・学校行事やたてわり班活動、ペアタイム、クラブ活動や委員会活動などを通して、他学年の児童と関わる機会が増えた。その関わりから自分の学年の友達のいいところだけではなく、他の学年の友達のいいところも見つけることができている。また、お互いの絆も深めることができている。		

・「いいところみつけ」に取り組むことで、友達のいいところを見つける目が育ってきている。学年を問わず友達のいいところを見つけ、言葉や「いいところみつけカード」で伝え合うことで、互いの違いを認め、一人一人のよさが発揮できている。

・個別の支援計画や指導計画については、特別支援学級担任を中心に作成することができている。さらに、内容を見直し、児童それぞれに合った目標や合理的配慮を考え、取り組むことができている。

#### 取組内容④

・各学年で年1回以上ゲストティーチャーを招いた体験学習や地域学習、社会見学などの学習を計画し、概ね計画通り実施することができている。これらの学習に取り組むことで、さまざまな仕事や日本の文化への興味をもたせ、好奇心や探求心、職業観を養うことができている。

・「キャリア・パスポート」の年間計画を作成し、学期・行事のはじめや終わりに活用し、目標の設定や振り返りに役立てることができている。

#### 次年度への改善点

#### 継続指導

## 大阪市立九条東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を62.3%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">児童アンケート63%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67.7%以上にする。(R6経年 67.6%) 児童アンケート84%</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(4) 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 児童が「わかった・できた」を実感できるようにICT機器を効果的に活用した授業づくりをする。</p> <p>○ 話し合いを通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように授業展開を工夫する。</p> <p>○ 東っこタイムを活用し、基礎学力の定着に努める。</p> <p>○ 外国語活動・英語学習では、C-NETや外部講師と協働し、授業を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を62.3%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">児童アンケート63% (R6経年 62.2%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R6経年 100%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R6経年 94.6%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に</p>	B

<p>回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R6 経年 83.8%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">児童アンケート92% (R6 経年 78.4%)</p> <p>○ 東っこタイムで、視写、漢字、計算に取り組む。また、「東っこ学期末漢字テスト」を年間3回実施し、正答率を80%以上の児童を80パーセント以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R6 1学期91% 2学期92% 3学期96%</p> <p style="text-align: right;">R7 1学期94%</p>	
<p>取組内容②【基本的（5）健やかな体の育成】</p> <p>○ 児童が積極的に体力・運動能力の向上に取り組めるように「体力テスト記録用紙」を活用し、保護者とも情報共有する。</p> <p>○ 体育の指導を工夫・改善するとともに、楽しく体力を高める場や機会を設定する。</p> <p>○ 健康週間を設け、手洗い・うがい・歯みがきの習慣を身につけさせる。</p> <p>○ 年間指導計画をもとに「食に関する指導」を行い、好ききらいなくバランスよく食べる習慣を身につけさせる。</p> <p>○ 各種たよりを年間通じて発行する。</p> <p>○ HPと校内掲示での食育・給食・保健関係の情報発信を昨年度と同様に行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を62.6%以上にする。児童アンケート84% (R6 経年 67.6%)</p> <p>○ 学級遊びやたてわり班遊び、ペア遊び等で週1回以上体を動かす機会を設定する。</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「自分の健康（手洗い・うがい・歯みがき・姿勢など）に気をつけていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。児童アンケート95% (R6 校内：100%)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「給食を楽しく食べていますか。」に対して、児童の肯定的な回答の割合を80%以上にする。児童アンケート97% (R6 校内：94%)</p> <p>○ たより（食育だより・給食だより・保健だより）を月1回発行する。</p> <p>○ HPと校内掲示等を活用し、タイムリーな食育・給食・保健関係の情報を発信する。</p>	A
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>・実施済みの児童アンケートでは、全ての項目において目標を上回っている。</p> <p>取組内容①</p> <p>・児童の「わかった・できた」を実感することや話し合いを通して自分の考えを深めたり、広げたりすることを達成するために、ICT機器の活用や展開を工夫して授業を行っている。また、ICTスキル向上のために毎月研修会を行い、知識・技術の定着を図るとともに互いの実践についての情報共有を行っている。</p> <p>・校内タイピング検定における「らっこたん」への取り組みが、児童のタイピングスキル向上のモチベーションアップにつながっている。</p>	



・東っこタイムで、視写、漢字、計算などに取り組み、基礎基本の定着を図っている。また、学期に1回「東っこ学期末漢字テスト」を行っている。児童が目標をもって取り組んだ結果、1学期の「東っこ学期末漢字テスト」では、平均正答率が94%と目標の80%を上回った。

・イングリッシュタイムや外国語活動・英語学習では、C-NETや外部講師とも協働し、活動や授業の中で、歌やチャンツ、ストーリーやアクティビティ等を取り入れ、児童が楽しんで活動できるように工夫している。

## 取組内容②

・「体力テスト記録用紙」で昨年度の記録を振り返ることで、自己の体力や運動能力の伸びと課題を捉えることができ、目標を立てて運動に取り組むことができている。また、6年間の結果を経年的に記録しているので、児童が実態把握しやすくなるとともに保護者との情報共有にも役立っている。

・講堂に大型テレビを配置し、体育でもICT機器を活用した授業を実践することが可能となり、体育の指導を工夫することにつながっている。

・たてわり遊びやペア遊びを継続的に行うことができているが、暑さ指数の関係から体を動かす機会が減っており、児童の体力低下が懸念される。

・手洗い・うがい・歯みがきの習慣を身につけさせるため、健康週間を設けたり、けんこう委員会の児童による替え歌を作ったりすることで、児童が積極的に健康の大切さを知ることができるように工夫している。

指標目標は上回っているが、R6結果からは下がっているため、保健指導や委員会活動などを通して児童や家庭へよびかける必要がある。

・せいけつ検査を行い、健康に関する指導を行っているが、一定数の児童はなかなか改善が見られない。保護者との連携が必要である。

・食育だより・給食だより・ほけんだよりを毎月発行している。また、HPや校内掲示、校内放送等で食育、給食、保健関係の情報を発信している。養護教諭の熱中症、感染症対策の呼びかけや、栄養教諭による給食時の給食クイズが子ども達の知識や関心を高めている。

・年間指導計画に沿って「食に関する指導」を行ったり、給食の時間に給食クイズを実施したりすることで、食に関する興味が高く、良い食習慣につながっている。

・今年度、児童から給食クイズを募集しており、「〇〇さんからのクイズです。」と児童名が入ったクイズは以前より注目され、給食を楽しく食べることにつながっている。しかし、募集開始当初、複数学年からあった応募も1学期後半からは、学年が限定されてきている。定期的にクイズを考える期間を設けることで、献立にも目を通し、食への関心をより高めることができると考える。

## 次年度への改善点

継続指導

(様式2)



大阪市立九条東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%（大阪市の令和7年度の目標）以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）</p> <p>9月末 84.2% （R6 61.6%）</p> <p>○ 第二期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75.1%以上にする。</p> <p>9月末 基準1 93.75% （R6 75%）</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【（6）教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b></p> <p>○ 教育情報利用パソコンなど、ICT機器を毎日活用する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 「navima」や「心の天気」を日常的に活用する。</p> <p>○ 各学年のICT到達目標に応じてICTスキルを向上させる。</p> <p>○ 調べ学習や発表資料の作成等に活用する。</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「学習者用端末を活用していますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p>児童アンケート92%（R6校内：98%）</p>	B
<p>取組内容② <b>【（7）人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>○ 週に1回「ゆとりの日」を設定し、教職員の働き方改革を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 学校全体の教員の平均時間外勤務時間を30時間以内にする。</p> <p>R7 9月末；16時間6分</p>	A
<p>取組内容③ <b>【（7）人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>○ 「学力向上支援チーム事業」の活用と主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 全ての教員が、年間1回以上の研究授業または公開授業を計画的に実施する。</p> <p>○ メンター研修を年10回実施し、若手教員の指導力・授業力等の向上を目指す。</p> <p>(8月末 4回)</p>	B
<p>取組内容④ <b>【（8）生涯学習の支援】</b></p> <p>○ 学校図書館を活用した調べ学習や読書活動の活性化を図る。</p> <p>○ 児童が本に親しむことができる環境を整える。</p> <p>○ ブックトラックの運用や「こども新聞」の掲示等、言語環境を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p>	B

<p>○ 校内児童アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を76.5%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">児童アンケート85% (R6校内: 79%)</p> <p>○ 図書の年間貸出冊数について、前年度の実績を維持する。</p> <p><b>4～8月 29.3冊 (昨年度4～8月 29.4冊) (昨年度 62冊)</b></p>	
<p>取組内容⑤【(9) 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>○ 学校ホームページや保護者メールを活用し、保護者や地域に向けて積極的に情報発信・情報共有を行う。</p> <p>○ 学校協議会を定期的開催し、積極的な協議を行い、学校運営に反映させる。</p> <p>○ 保護者向けに「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 授業中は、学校ホームページの更新を毎日2回以上行う。</p> <p>○ 学校協議会を年3回開催し、協議内容を学校運営に積極的に反映させる。</p> <p>○ 「家庭学習の手引き」を毎年1回配付し、保護者の意識を向上させる。</p> <p style="text-align: center;">配付済</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>・実施済みの児童アンケートでは、全ての項目において目標を上回っている。</p> <p>取組内容①</p> <p>・心の天気やGoogleクラスルーム、Canva、navima、NHK for school等児童が日常的に様々な場面でICT機器を使うことができている。その結果、「学習者用端末を活用していますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合は92%と、目標の80%以上を上回った。児童は基本的な使い方を習得しており、使える場面を更に増やしていきたい。</p> <p>・校内タイピング検定はICTスキルのひとつであり、目に見える結果が出るので、児童にとってわかりやすく達成感がある。その結果、積極的にタイピング練習を行う児童も増えてきている。</p> <p>・ICT機器の活用について、今年度の研究テーマでもあり、様々な教科で目的に合わせて活用している。児童らは、日々ICT機器を使用することで、アプリの使い方やより良い操作方法に気づいており、児童自ら積極的に活用する姿が見られる。その日常的な活用の成果が、児童アンケートの結果に現れている。そして、各学年のICT到達目標に応じたICTスキルの向上につながっている。また、教員のICTスキルも向上しており、学校全体を通してICT機器を多く活用することができている。</p> <p>取組内容②</p> <p>・毎週1回「ゆとりの日」を設定し、教職員の働き方改革を推進することで、計画的に業務を進め、時間外勤務時間を減らそうとする意識が高まっている。学校全体の9月末時点の平均時間外勤務時間は16時間6分と、目標を達成することができている。</p> <p>・学年だよりと学校だよりを連携することで教員の業務の負担が減った。また、チャットを活用することで、行事などの予定や連絡等をすぐに確認ができ、作業の見通しが立ちや</p>	

すくなった。仕事の効率化を今後も継続的に進めていく。

#### 取組内容③

- ・全ての教員が、年間1回以上の研究授業または公開授業を計画的に実施している。
- ・メンター研修を計画的に実施している。若手教員の指導力や授業力の向上につながっている。
- ・月に1回程度の実技研修や実践交流会を通してICTスキル向上を図っている。ICT機器を効果的に活用した授業を行い、主体的・対話的で深い学びにつながるように取り組んでいる。

#### 取組内容④

- ・図書室は蔵書が充実しており、図書委員や学校図書館補助員が図書館開放もしているの  
で、本に親しむ環境が整っている。授業でも関連本の並行読書を促したり学年貸出をして  
教室に本を並べたりするなどして、本を手にとりやすい環境を作っている。
- ・週に2回読書タイムを設けたり、委員会でおすすめの本を紹介したりして児童が興味を  
もてるようにしている。また、週に2回図書委員が、週に1回学校図書館補助員が図書館  
開放を行っており、児童らが自由に図書館を利用することができる環境が整えられている。  
その結果、校内児童アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答を  
する児童の割合は85%と、目標の76.5%を上回っている。
- ・毎学期ごとに学校図書館補助員が学年に応じた本を割り当てブックトラックを運用したり  
、「こども新聞」の掲示をしたりする等、言語環境を充実させている。
- ・図書の年間貸出冊数は、1人あたり29.3冊で前年度の同時期と比較して1.1冊増加  
している。一方で実際に読書が好きな児童は減少している。字を読むことへの苦手意識を  
もつ児童もあり今後の課題である。

#### 取組内容⑤

- ・学校協議会を計画に沿って開催し、協議内容を学校運営に反映させている。
- ・「家庭学習の手引き」を1学期の懇談会で配付して、家庭学習について家庭との連携を図  
っている。また、児童らへ学習の仕方やその目安時間について話している。
- ・学校ホームページを毎日更新し、献立や学校生活の様子などを積極的に情報発信してい  
る。

#### 次年度への改善点

- ① 一部児童に、学習者用端末を使うときの約束を継続的に指導する必要がある。
- ② 仕事内容や仕事量の偏りがないように今後も継続して調整が必要である。